

一般社団法人エレクトロニクス実装学会 学会誌等の投稿規程

平成 24 年 4 月 1 日制定

(目 的)

第 1 条 この規程は、一般社団法人エレクトロニクス実装学会（以下、「本学会」という）の学会誌等に投稿する際に遵守すべき事項について定めることを目的とする。

2. 前項の「学会誌等」とは、「エレクトロニクス実装学会誌」（以下、「学会誌」という）と「Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging」（以下、「英文論文誌」という）を指す。

(投稿者の資格)

第 2 条 学会誌の投稿代表者は、本学会の正会員または学生会員でなければならない。

2. ただし前 1 項に関わらず、本学会の編集委員会で認めた場合は、この限りではない。

3. 英文論文誌の投稿代表者は、本学会の正会員または学生会員に限らず投稿および掲載できる。

(著作権および出版権)

第 3 条 本学会の学会誌および英文論文誌に掲載された内容の著作権および出版権は本学会に帰属する。

2. 本学会の学会誌および英文論文誌に掲載された内容の全文または一部を、原著者自身が著作権法の範囲内で複製、翻訳、翻案などの形で利用することは差し支えない。ただし本学会に事前に書面にて申し出て許諾を求めるとともに、原稿中に本誌からの引用・転載であることを明記しなければならない。

3. 本学会の学会誌および英文論文誌には、他の著者による既発表の文献と同一内容または極めて類似した内容の投稿は受け付けられない。

4. 自らの著作物であっても、本学会以外の組織が著作権を有していて、本学会に著作権譲渡できないなどの著作権上問題がある場合の投稿は受け付けない。

5. 本学会の学会誌および英文論文誌に掲載された記事の引用・転載などの申請が外部からあった場合は、本学会が適当と認めた場合には、その申請を許諾することができる。但し、その旨を事前に原著者に連絡する必要がある。

6. 本学会の学会誌および英文論文誌に掲載する論文、解説記事などに他の著作物に記載された内容の一部を引用する場合には、その著作物の著作権所有者の承諾を得た上、出典を明記しなければならない。

(投稿原稿の再掲載)

第 4 条 この規程でいう投稿原稿の種類については、別途定める「学会誌等投稿規程の運用細則」で定め、本学会の学会誌および英文論文誌に掲載する投稿原稿は、原則として、いずれも印刷物または電子的媒体として未発表、あるいは公共性の高いプレプリントサーバ等に掲載されたことがないものに限る。

2. ただし前項に関わらず、第 5 条に定める二重投稿禁止に記載の例外文献および、編集委員会が認めたものはこの限りではない。

3. 第 1 項に関わらず、本学会の英文論文誌に掲載後 1 年以内であれば、和文に翻訳して本学会の学会誌に投稿ができる。ただし、投稿時に「英文論文誌に掲載された論文の和訳である」ことを明記すること。

4. 第 1 項に関わらず、本学会の学会誌に掲載後 1 年以内であれば、和文を翻訳して英文論文として英文論文誌に投稿がで

きる。ただし、投稿時に「学会誌に掲載された論文の英訳である」ことを明記すること。

(論文の二重投稿の禁止)

第 5 条 既発表または投稿中の文献と同一内容または極めて類似した内容を、同一著者もしくは少なくとも 1 名を含む著者として、「学会誌等投稿規程の運用細則」で定める論文として投稿してはならない。

2. ただし前項に関わらず、既発表または投稿中の文献すべてが、以下の第 (1) 号かつ第 (2) 号の両方の条件を満足し、かつ、(脚注や参考文献の形で) 論文中で適切に引用されている場合は、例外として二重投稿にはあたらないものとする。

(1) 該当文献が著作権および出版権について前第 3 条の第 3 項および第 4 項に抵触していない

(2) 該当文献が以下のいずれかであること

① 特許公開／公告公報等

② 大学の学士論文・修士論文・博士論文・テクニカルレポート等

③ 本会や他学会の大会・研究会・国際会議等の予稿集・プロシーディング等

④ 本学会の学会誌に投稿する場合で、英文論文誌に掲載後 1 年以内に和文に翻訳したもの

⑤ 本学会の英文論文誌に投稿する場合で、学会誌に掲載後 1 年以内に英文に翻訳したもの

⑥ 企業の技報等

⑦ 新聞記事等

⑧ 公共性の高いプレプリントサーバ等に含まれる文献

(二重投稿に対する罰則)

第 6 条 投稿原稿に対して、二重投稿の疑いが生じた場合、編集委員会では、他学会等と連絡をとり調査する。調査の結果として、編集委員会が二重投稿と判断した場合は、以下の処分を科す。

(1) 投稿論文に対する即時の不採録

(2) 投稿原稿の全著者に対する本会の全論文誌及び学会誌への処分決定後 1 年間の投稿禁止

(3) 二重投稿先に対する周知

(4) 掲載後に発覚した場合は、掲載取消の周知文を学会誌（冊子体及び Web）に掲載

(著者の責任)

第 7 条 掲載された原稿の内容に関する責任は、著者が負うものとする。

(投稿方法・査読)

第 8 条 投稿原稿の書き方及び投稿方法、査読および著者校正の詳細規程については、別に定める「学会誌等投稿規程の運用細則」による。

(投稿等料金)

第 9 条 本学会の学会誌または英文論文誌への投稿及び別刷り料金については、別に定める「学会誌等投稿規程の運用細則」による。

(改 廃)

第 10 条 この規程の改廃は、理事会の決議を経て行う。

附 則

この規程は、移行認可をうけ、移行の登記の日から施行する。

一般社団法人エレクトロニクス実装学会 学会誌等投稿規程の運用細則

平成 24 年 4 月 1 日制定
平成 25 年 3 月 1 日改訂
平成 26 年 4 月 1 日改訂
平成 30 年 10 月 1 日改訂

(目的)

第 1 条 この細則は、一般社団法人エレクトロニクス実装学会(以下、「本学会」という)が別に定める「学会誌等の投稿規程」を運用するために必要な詳細な事項を定めることを目的とする。

2. ここで学会誌等とは、「エレクトロニクス実装学会誌」(以下、「学会誌」という)と「Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging」(以下、「英文論文誌」という)を指す。

(投稿の種類)

第 2 条 本学会の学会誌の論文の種類は以下のとおりとする。

(1) 研究論文

エレクトロニクス実装技術に関する分野で、独創性・新規性・価値のある内容を含む研究について有用性・発展性のある新しい技術・知見・理論の報告とする。また、緒言、方法、結果、考察、結論等の内容で構成され、論文としての体裁の整ったものとする。掲載範囲は 6~8 ページを目安とする。

(2) 総合論文

エレクトロニクス実装技術に関する研究で、独創性・新規性・価値のある内容を含み、かつ、著者自身が発表した一連の研究論文や速報論文をまとめて総合的に考察を加え、独創的かつ価値のある知見を得たものとする。掲載範囲は 6~10 ページを目安とする。

(3) 速報論文

エレクトロニクス実装技術に関する研究で、独創性・新規性・価値のある内容を含み、速やかに発表する必要のあるものとする。速報論文の内容をさらに発展させることにより、本誌の研究論文として投稿できる。掲載範囲は 2~4 ページを目安とする。

2. 本学会の学会誌の論文以外に掲載するものは以下のとおりとする。

(1) 技術報告

エレクトロニクス実装技術に関する研究・開発の過程で得られた調査結果、試験結果、解析結果、製品(ソフトウェアを含む)等についての報告とする。技術報告は、記録として残す価値があるもので、工学的または工業的有用性が求められる。掲載範囲は 3~6 ページを目安とする。

(2) 解説

各分野のトピックス、例えば新開発の技術、技術の基礎となる理論や応用技術、実務上有用な内容などについて、読者にわかりやすく解説したものとする。掲載範囲は 4~8 ページを目安とする。

(3) 誌上討論

掲載された研究論文、総合論文、速報論文、技術報告に対する質疑討論を誌上にて行うものとする。掲載範囲は 1~2 ページを目安とする。

(4) 一般寄稿

図書紹介、書評、海外情報、あるいは読者の声、随想など、本学会員にとって有益と思われる内容、その他編集委員会が適当と認めたものとする。掲載範囲は任意とする。

3. 本学会の英文論文誌に掲載する論文は以下のとおりとする。

(1) テクニカルペーパー

英文で書かれたもので、エレクトロニクス実装技術に関する

分野で、独創性・新規性・価値のある内容を含む研究について有用性・発展性のある新しい技術・知見・理論の報告とする。また、緒言、方法、結果、考察、結論等の内容で構成され、論文としての体裁の整ったものとする。掲載範囲は 4~10 ページを目安とする。

(2) ショートノート

英文で書かれたもので、エレクトロニクス実装技術に関する研究で、独創性・新規性・価値のある内容を含み、速やかに発表する必要のあるものとする。ショートノートの内容をさらに発展させることにより、本誌のテクニカルペーパーとして投稿できる。掲載範囲は 4 ページ以内を目安とする。

(3) チュートリアルペーパー

英文で書かれたもので、エレクトロニクス実装技術に関しての解説的な内容の報告とする。例えば新開発の技術、技術の基礎となる理論や応用技術、実務上有用な内容などについて、読者にわかりやすく解説したものとする。掲載範囲は 4~10 ページを目安とする。

(使用言語)

第 3 条 本学会の学会誌への投稿の原稿は日本語または英語に限る。

2. 本学会の英文論文誌への投稿の原稿は英語に限る。

(原稿の書き方と投稿方法)

第 4 条 本学会の学会誌への投稿原稿の書き方は、編集委員会が別途定めた「学会誌原稿執筆の手引き」(ガイドライン)に従う。

2. 本学会の英文論文誌への投稿原稿の書き方は、英文論文誌編集委員会が別途定めた「Information for Authors」に従う。

3. 投稿代表者は本学会所定の投稿カード(電子投稿システムの場合は画面による)に投稿原稿の種別を明記し、原稿とともに提出する。

4. 投稿原稿の受理日は本学会に原稿が到着した日とし、これを本学会の学会誌または英文論文誌の掲載時に明記する。

5. 本学会の学会誌または英文論文誌に掲載可となった場合、著者は著作権移譲の承諾書に署名し、提出しなければならない。

6. カラー印刷を希望する場合、図・写真をカラーで掲載希望の場合は別途料金とする。

(カラー印刷を希望する場合は見積もりをおとりします。)

(査読)

第 5 条 学会誌への投稿原稿に対する査読は以下の第 1 号から第 3 号に従って行う。

(1) 学会誌に投稿された原稿は、別途定めた「査読について」に沿った専門家・識者による査読の結果を基に、編集委員会において掲載の可否を決定する。

(2) 査読の結果、再提出を要求された投稿原稿については、本学会から著者あてに返送された日から起算して 3 か月(ただし速報論文の場合は 1 か月)を経過しても再提出されない場合は新規投稿として扱う。

2. 英文論文誌への投稿原稿に対する査読は以下の第 1 号から第 2 号に従って行う。

(1) 英文論文誌に投稿された原稿は、別途定めた「査読につ

いて」に沿った専門家・識者による査読の結果を基に、英文論文誌編集委員会において掲載の可否を決定する。

- (2) 査読の結果、再提出を要求された投稿原稿については、本学会から著者あてに返送された日から起算して3か月（ただしショートノートの場合は1か月）を経過しても再提出されない場合は新規投稿として扱う。

(著者校正)

第6条 本学会の学会誌および英文論文誌への投稿原稿著者校正は1回行う。

2. 校正原稿は受け取り後1週間以内に返送することとし、期限内に遅れた場合は、編集委員会または英文論文誌編集委員会の校正をもって校了とすることがある。
3. 校正の際の加筆は原則として認めない。
4. 印刷上の誤りについては、著者からの正誤訂正の申し出があった場合に、原稿と対比し、誤植と原稿訂正の別を明らかにして、直近の発行号に掲載する。

(掲載料)

第7条 本学会の学会誌に掲載された投稿原稿の著者は別表1に定める掲載料を支払う。ただし、編集委員会より執筆を依頼した原稿については、掲載料は無料とする。

別表1 学会誌への掲載料 (消費税別)

論文・報告の種類	掲載料
研究論文・総合論文・速報論文・技術報告	刷り上がり1ページにつき5,000円
解説、誌上討論、一般寄稿	無料

2. 本学会の英文論文誌に掲載された投稿原稿の著者は別表2に定める掲載料を支払う。ただし、英文論文誌編集委員会より執筆を依頼した原稿については、掲載料は無料とする。

別表2 英文論文誌への掲載料 (消費税別)

論文・報告の種類	掲載料
テクニカルペーパー・ショートノート・チュートリアルペーパー	刷り上がり1ページにつき5,000円

(別刷り)

第8条 本学会の学会誌または英文論文誌に掲載された投稿原稿の別刷りを希望する場合は、投稿原稿の種類あるいは編集委員会または英文論文誌編集委員会より執筆を依頼した原稿にかかわらず、別表3に定める代金により、申しこむことができる。学会誌および英文論文誌別刷りは印刷物またはCDでの申込みができる。

(改 廃)

第9条 この細則の改廃は、会誌発行事業担当常任理事が行い、改廃後は速やかに理事会へ報告する。

附則

1. この規程は、移行認可をうけ、移行の登記の日から施行する。
2. この改訂細則は平成30年10月1日から施行する。

別表3 学会誌の別刷り料金

(1) 表紙なしの場合

(単位：円，消費税別)

ページ数	別刷り部数			
	25部	50部	75部	100部
1～2p	4,500	4,500	5,000	5,000
3～4p	6,500	6,500	7,000	7,000
5～6p	7,000	7,000	8,000	8,000
7～8p	7,500	7,500	9,000	9,000
9～10p	8,000	8,000	10,000	10,000
11～12p	8,500	8,500	11,000	11,000
13～14p	9,000	9,000	12,000	12,000
15～16p	9,500	9,500	13,000	13,000

(2) 表紙付きの場合

(単位：円，消費税別)

ページ数	別刷り部数			
	25部	50部	75部	100部
1～2p	8,000	8,000	10,000	10,000
3～4p	10,000	10,000	12,000	12,000
5～6p	10,500	10,500	13,000	13,000
7～8p	11,500	11,500	14,000	14,000
9～10p	12,000	12,000	15,000	15,000
11～12p	12,500	12,500	16,000	16,000
13～14p	13,000	13,000	17,000	17,000
15～16p	13,500	13,500	18,000	18,000

(3) CDによる別刷り作成

(単位：円，消費税別)

原版作成 (1枚) CDラベル含む	4,000
増版 (1枚につき)	500

(表紙データ追加：2,000円)

(4) 梱包手数料および送料

(単位：円，消費税別)

梱包手数料	400
送料 (郵送または宅配便)	実費

査読について

1. 一般方針

学会誌および英文論文誌に投稿された原稿は、本会編集委員会から任命された委員が査読し、その判定結果に基づいて編集委員会が採否などの処置を決定する。

査読は、正確・公平・迅速を旨とし、投稿原稿の内容が査読基準を満たしているか否かの判定を主眼に行われる。

2. 査読基準

投稿された原稿のうち、「研究論文」「総合論文」「速報論文」「テクニカルペーパー」「ショートノート」の査読は、次の6つの観点を中心に行う。その他の投稿原稿は、運用細則第2条に分類された、各々の原稿に必要なとされる条件を満たしているか否かにより、採否の判定を行う。

- (1) 独創性：著者独自の新しい考えや発想に基づくものであること。
- (2) 新規性：公知の事実や既発表または既知のことから容易に導き得る内容でないこと。
- (3) 有用性：学術や産業の発展に役立つ内容であること。
- (4) 信頼性：実験方法やデータ、基本的事実、その他、記述内容に誤りがなく、信頼性の高いものであること。
- (5) 表現形式：表現が適切で、用語や単位が統一されていること。また、既知の事実を引用する場合、文献等が適切に引用されていること。企業名・商品名等がみだりに用いられていないこと。特に研究論文、総合論文、速報論文、技術報告の場合には、題目に商標名が用いられていないこと。
- (6) 完成度：本論の展開が論理的に整合され、簡潔明瞭に記述されていること。

3. 判定および処置

2.の査読基準に基づいて、以下の処置・判定をする。

- (1) 判定の種別
査読後の判定の種別は次の通りである。
 - (イ) 掲載可
投稿した原稿のまま掲載可とする。

- (ロ) 要修正

査読員の指摘に従い修正されれば掲載可とする。この場合、再提出原稿について、査読員による再査読は必要、不要いずれの場合も含む。なお、速報論文については再査読は原則1回とし、1回で判定基準を満たすのが困難と思われるものは掲載不可とする。

- (ハ) 掲載不可

内容に著しい修正を要し、指定期間内の修正が困難と思われる場合、および元の原稿とは根本的に異なるものとする必要のある場合は掲載不可とする。

なお、再提出原稿とは、査読意見に基づいて著者によって修正され、3か月（ただし、速報論文、ショートノートの場合は1か月）以内に再提出された原稿を指す。指定期間を経過して提出されない原稿は取り下げとみなし、それ以後に提出された原稿は新規投稿扱いとする。なお、掲載不可と判定された原稿の著者は、原則として掲載不可の通知受領後1か月以内であれば、異議申し立てをすることができる。

- (2) 査読プロセス

- ・研究論文、総合論文、テクニカルペーパー、チュートリアルペーパーの査読は2名で行う。
- ・速報論文、ショートノートおよびその他の投稿原稿の査読は1名で行う。
- ・査読の期間は3週間とし、その結果を参考に編集委員会にて掲載可否の最終決定を行う。

4. 原稿の掲載

掲載可となった原稿については、査読が終了したものから順に掲載していくことを原則とする。ただし、期近号が全冊特集号となる場合はこの限りではない。

「エレクトロニクス実装学会誌」原稿執筆の手引き

1. 原稿の書き方

「エレクトロニクス実装学会誌」への論文は、本会ホームページ (<http://jiep.or.jp/>) に掲載の電子投稿システムから投稿してください。

(英文論文誌 Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging への論文は、Eメールで投稿してください)

問い合わせ先：一般社団法人エレクトロニクス実装学会
学会誌編集担当宛て
〒167-0042 東京都杉並区西荻北 3-12-2
電話 03-5310-2010
Eメール：hensyu@jiep.or.jp

1.1 入稿の方法

① 本文

A4 判に、Word またはテキストファイルで提出する。一太郎は不可。

② 図表類

図表類についても、デジタルデータで提出する。

- (1) Word, パワーポイント, エクセル, イラストレータ, フォトショップ
- (2) (1) 以外は eps, pict, tiff のファイル形式に変換して提出する。

図の製作についてお願い!

- ・本学会誌のオンライン版は、カラーで発行されますが、冊子体はモノクロ印刷になります。図表をカラーで作製した場合は、モノクロでプリントアウトし、黒、灰色の濃淡、白の色の区別で、十分内容を表現・識別できるようになっているか、確認してください。
- ・図やグラフ等のバックには色や灰色を使わず白にしてください (印刷時きれいに生まれません)。
- ・カラー印刷を希望する場合は別途料金を申し受けます。「投稿規程の運用細則」第4条6.を参照ください。

また、文字入力時に下記の点に留意する。

- ① 英数字は、基本的に半角で入力する。
- ② 「, (カンマ)」「。(まる)」「・(中黒)」などは全角で入力する。

1.2 原稿には、通しページをふる。

2. 原稿の構成

2.1 研究論文

- ① 表題部 (3.1 参照), 和文概要, 英文アブストラクト, キーワード, 本文, 図表を提出する (本文と図表は別々にする。レイアウトされた形では提出しない)。
- ② 原稿の長さは学会誌 6~8 ページ目安 (14,000~19,000 字, ただし図表等を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 和文概要は, 本文を参照せずに概要のみで論文の趣旨が把握できるようにする。原稿量は 300 字以内。
- ④ 英文アブストラクトは, その論文で著者が強調したい要点について要約したものとす。原稿量は 100~150 語以内。
- ⑤ キーワードは英文とし, 5 項程度とする。
- ⑥ 本文は次の形式に従って執筆することが望ましい。緒言, 主部, 結論, 謝辞, 文献, 付録。このうち謝辞, 付録は省いてもよい。
- ⑦ 著者紹介を掲載する。書き方は 3.12 参照。

2.2 総合論文

- ① 表題部 (3.1 参照), 和文概要, 英文アブストラクト, キーワード, 本文, 図表を提出する (本文と図表は別々にする。レイアウトされた形では提出しない)。
- ② 原稿の長さは学会誌 6~10 ページ目安 (14,000~24,000 字, ただし図表等を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 和文概要は, 2.1 ③ に準ずる。
- ④ 英文アブストラクトは, 2.1 ④ に準ずる。
- ⑤ キーワードは 2.1 ⑤ に準ずる。
- ⑥ 本文の形式は 2.1 ⑥ に準ずる。
- ⑦ 著者紹介を掲載する。書き方は 3.12 参照。

2.3 速報論文

- ① 表題部 (3.1 参照), 英文アブストラクト, キーワード, 本文, 図表を提出する。和文概要は不要 (本文が英文で書かれたもの場合は, 300 字以内の和文概要をつける。この場合, 英文アブストラクトは不要)。
- ② 原稿の長さは, 学会誌 2~4 ページ目安 (4,000 字~9,000 字。ただし図表を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 英文アブストラクトは 2.1 ④ に準じ, 原稿量は 100 語以内。
- ④ キーワードは 2.1 ⑤ に準ずる。
- ⑤ 本文の形式は, 2.1 ⑥ に準ずる。
- ⑥ 著者紹介を掲載する。書き方は 3.12 参照。

2.4 技術報告

- ① 表題部 (3.1 参照), 英文アブストラクト, キーワード, 本文, 図表を提出する。和文概要は不要 (本文が英文で書かれたもの場合は, 300 字以内の和文概要をつける。この場合, 英文アブストラクトは不要)。
- ② 原稿の長さは学会誌 3~6 ページ目安 (6,500 字~14,000 字。ただし図表を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 英文アブストラクトは 2.1 ④ に準ずる。
- ④ キーワードは, 2.1 ⑤ に準ずる。
- ⑤ 本文の形式は, 2.1 ⑥ に準ずる。
- ⑥ 著者紹介を掲載する。書き方は 3.12 参照。

2.5 解説

- ① 表題部 (3.1 参照)。本文, 図表を提出する。和文概要, 英文アブストラクト, キーワードは不要。
- ② 原稿の長さは, 学会誌 4~8 ページ目安 (9,000 字~19,000 字。ただし図表を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 著者紹介を掲載する。書き方は 3.12 参照。

2.6 誌上討論

- ① 表題部 (3.1 参照), 本文, 図表を提出する。和文概要, 英文アブストラクト, キーワードは不要。
- ② 原稿の長さは, 学会誌 1~2 ページ (1,800 字~4,000 字。ただし図表を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 学会誌第〇巻第〇号に掲載された何に対する討論であるかを明記する。

2.7 図書紹介・書評

- ① 表題部 (3.1 参照)。本文, 図表を提出する。和文概要, 英文アブストラクト, キーワードは不要。
- ② 原稿の長さは, 学会誌 1/2 ページ (1,000 字程度。ただし

図表を含む。図表は1点400字程度として換算する)。

- ③ 原稿には紹介する図書名、出版社、発行年を明記する。

2.8 海外情報

- ① 表題部(3.1参照)、本文、図表を提出する。和文概要、英文アブストラクト、キーワードは不要。
- ② 原稿の長さは、学会誌2~4ページ(4,000字~9,000字。ただし図表を含む。図表は1点400字〈大きく扱う必要のある図は800字〉程度として換算する)。

2.9 読者の声および随想

- ① 表題部(3.1参照)。本文、図表を提出する。
- ② 原稿の長さは、学会誌1/2ページ(1,000字程度。ただし図表を含む。図表は1点400字程度として換算する)。

2.10 英文原稿

投稿原稿は、英文で執筆されたものでもよい。その場合、それのみで要旨が把握できる和文概要(300字以内)を必ず添付する。和文概要が添付できない場合は、英文概要でもよい(編集委員会が翻訳する:有料)。

3. 執筆要領

3.1 表題部

- ① 表題:和文と英文の両方を書く。英文表題については、冠詞、接続詞、前置詞以外の単語の頭文字は大文字で書く。ハイフンでつながれている場合も同様。
〈例〉Packaging Technology in Silica-Based Planar Lightwave Circuit
- ② 著者名:和文と英文の両方をフルネームで書く。英文の場合は、姓はすべて大文字、名は頭文字のみ大文字にする。
〈例〉Taro NISHIOGI, Hanako SUGINAMI
- ③ 所属機関名・所在地:和文と英文の両方を書く。所属機関名は公式の表示に従い、所属部署までを書く。著者が複数で、所属が異なる場合もそれぞれ書く。

3.2 見出し

大見出し(章に該当)は、左の端から書き、中見出し(節に該当)や小見出し(項に該当)は1字分あけて書く。文章は行を改めて書き、書き出しは1字あける。

〈例〉2. 高密度多層プリント配線板

2.1 製造技術

2.1.1 内層パターン形成

パターン形成法としては、現在、ドライフィルムであるが、将来は、液体レジスト露光法が一般的になると…

3.3 本文

- ① 本文は「である」調とし、できるだけ平易に表現する。専門用語以外は常用漢字を使用し、句読点は「, (カンマ)」, 「。(まる)」とする。
- ② 読みやすいように、内容の区切りで段落を入れる。
- ③ 文の流れがわかるように、読点(,)を1行に1, 2か所入れる。
- ④ 全体を通して用語を統一する。特に共著の場合は注意する。
- ⑤ 英語、カタカナの使用は最小限にとどめる。適訳のあるものは、日本語に直す。
- ⑥ 略語には、カッコ()で簡単な説明を入れる。
- ⑦ 次の言葉は、ひらがなを使う。
したがって、さらに、また、すなわち、および、ただし、あるいは、いろいろ、さまざま、それぞれ、われわれ、することは、するため、のように、~など、~らは
- ⑧ 送りがなは、新送りがなにする。活用語尾を送る。
起こる、組み合わせる、引き上げる、立ち上がる、1個当たり
- ⑨ 数字はアラビア数字を用いるが、文章になっている数字

は漢字とする(例:数100m→数百m)。

- ⑩ 引用文献の該当部分の右上に³⁾のように通し番号をつける。文献番号は本文の登場順にふる。

- ⑪ 本文内に図表の挿入位置を示す。

3.4 固有名詞

- ① 人名の敬称は日本人、外国人ともつけない。また、外国語の国名はカタカナ書きとし、地名、会社名、大学名、人名は原語のまま記載する。本文中の会社名等で(株)、(社)は省略する。

〈例〉	可	不可
	アメリカ	米 国
	イギリス	英 国
	フランス	仏 国
	Chicago 大学	シカゴ大学

- ② 専門用語になっている人名はカタカナ書きとする。
〈例〉ファラデーの法則、ガンダイオード、トムソン効果、など

3.5 専門用語と物質名

- ① 専門用語と物質名は原則として文部省編「学術用語集」と、JISの各種用語集に基づくこととする。

《注》

「プリント配線板」, 「プリント回路板」の語を使用し, 「プリント配線基板」, 「プリント回路基板」は使わない。

- ② 外国語名は、慣用呼称をカタカナ書きとし、本文中の最初に登場する部分でカッコ内に原綴りを示す。

3.6 単位

原稿に用いる単位はSIとし、必要なものには従来単位をカッコ書きで併記してもよい。

3.7 数式の書き方

- ① 文章中の数式は、 $x/3$, $a/(b+c)$, $(x+y)/(a-b)$ のように書き、

$\frac{x}{3}$, $\frac{a}{b+c}$, $\frac{x+y}{a-b}$ のようには書かない。

- ② 文章とは別に式だけを書く場合は、 $\frac{x}{3}$, $\frac{a}{b+c}$, $\frac{x+y}{a-b}$ のように書く。

- ③ 式を書く場合、式の記号の説明を必ず添える。

- ④ 数式の番号は通し番号とし、番号をカッコ書きとする。

- ⑤ 本文中で式番号を引用するときの書き方は「式(5)」等と書く。

3.8 英文字

変数、物理量にあたるローマ字は、イタリックとする。

3.9 図・写真・表の描き方

- ① 図表はA4判に1枚=1~2点で鮮明に描き、図および表の通し番号をつける。

- ② 図・写真、およびその中の文字は原稿をそのまま使用(原寸あるいは縮小)するので、大きめに描き、線の太さ、濃淡、文字の大きさに注意して作成する。

《注》: 図表は本文1段の幅で使用する場合は左右84mm以内、2段通しの幅で使用する場合は左右175mm以内となります。

- ③ 図の縦軸、横軸には、必ず軸の名称と単位を記入する。

- ④ 写真は図として扱い、図の通し番号をつける。

- ⑤ 図表には必ず表題をつける。表題は、図ではその下に、表ではその上に、左右中央の位置に置く。

図表に(a), (b)……がある場合は、それぞれについても説明を書く。

- ⑥ 図中の文字はゴシック体、表中の文字は明朝体とする。

- ⑦ 図表中の説明および表題は、研究論文、総合論文はすべて英文とする。その他の原稿は、国際性を考え広く理解さ

れるよう、極力英文とする。ただし、和・英文はどちらかに統一する。

- ⑧ 本文を読まなくても、図説だけでわかるように書く。
- ⑨ 機械類の図では、必要に応じて図中に実物の寸法を示す。
- ⑩ 顕微鏡写真には、その倍率が明確になるようにスケールを入れる。

3.10 文献

- (1) 引用文献は本文に登場順の通し番号とし、本文中該当部分の右上に³⁾等と番号をつける。
- (2) 1文献に1番号を対応させる。同一著者の別の文献についても、別番号にする。
- (3) 文献の引用にあたっては必ず出典を明記し、必要に応じて原著者の了解を得る。
- (4) 文献の著者名は日本語ならばフルネーム（例：山田太郎）で、英語ならば、名前だけのイニシャル（例：T.Yamada）で書く。
- (5) 文献の著者名は全員記入する。ただし研究論文、総合論文以外の場合は、～他、～ et al.としてもよい。
- (6) 同じ文献を連続して引用する場合、研究論文、総合論文以外は ibid. という表現等の省略を可とする。
- (7) 巻、号、ページの数字の前には、必ず Vol., No., p. または pp. をつける。
- (8) 文献の書き方は、次の通り。

① 単行本の場合（図書）

- 1) 編著者が1人あるいは項目別に分けられていない場合（編）著者名：“書名,” 出版社, 発行年, (シリーズ名, 番号)
- 2) 編纂物で項目が独立している場合（編）著者名：“論文名,” pp. ○○-○○, 編纂名, 出版社, 発行年, (シリーズ名, 番号)

② 逐次刊行物

- 1) 雑誌の場合
著者名：“論文名,” 雑誌名, Vol. ○, No. ○, pp. ○○-

○○, 年月

2) 新聞の場合

著者名のある場合は著者名：“見出し（主題）,” 新聞名, 年月日, 版, 朝夕の別, 何面

③ その他

1) 辞書・事典類

項目名, 辞典・事典名, 出版社, 版, pp. ○○-○○

2) 便覧の場合

著者名：“項目名,” 編纂名, 便覧名, 出版社, 版, 発行年, pp. ○○-○○

3) 資料その他の場合

著者名：“資料名,” 資料番号, 発行所, 年月日, pp. ○○-○○, その他

4) ウェブサイト

著者名：“資料名,” [Online]. Available: <http://Website URL>, Accessed: 年月日

3.11 脚注

脚注は本文の該当部分の右上に^{*1}……とつけ、当該原稿部分の下に注記内容を記述する。

3.12 著者紹介

研究論文・総合論文・速報論文・技術報告・解説は、共著者を含む全著者の紹介を掲載する。1名分の文字数は22字×8行以内（名前以外の分量）。記述項目については各著者に一任する。また、顔写真も掲載する。

ただし、著者の希望により「著者紹介を掲載しない」「紹介文は掲載するが顔写真は掲載しない」などあればその通りにいたしますので、投稿の際にご連絡下さい。

4. お願い

・企業PR、製品PRなどと誤解をうけるような表記を避けていただくよう、お願いいたします。

INFORMATION FOR AUTHORS

General Guidelines for Manuscript Submission

Authors should submit their manuscript as an attached file via E-mail hensyu@jiep.or.jp to the **Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging (Trans JIEP)**, according to specified style and format as shown below. JIEP Membership is not required.

Original and unpublished papers are required. However, a paper presented at JIEP conferences (e.g. ICEP) or published in those proceedings are acceptable. Moreover, the paper that is translated in English from the original Japanese paper published in the Journal of The Japan Institute of Electronics Packaging will be also acceptable if they are submitted within one year after publication.

A page charge will apply for all accepted papers according to the number of pages in their final form.

Technical Contents of Manuscript

The technical contents of papers should be new and significant with the exception of tutorial papers. Experimental data should be complete and should include sufficient description of experimental apparatus, methods, and experimental conditions.

Manuscript Style

- (1) Prepare a manuscript in single-column, double-spaced format.
- (2) Provide “paper title,” “name(s) of author(s),” affiliation of author(s),” and “postal address and e-mail address”.
- (3) Provide an informative 50 to 200 word “abstract,” followed by selected 5 to 10 “keywords”.
- (4) References appear as a separate section at the end of the paper, with items referred to by numerals in square brackets. References should be complete and in the Journal of JIEP style.
- (5) Provide a separate page listing all figure captions in proper style for the typesetter.
- (6) Refer to all tables and illustrations in the text. The initial references to illustrations and tables in the text should be numerically sequential.
- (7) Use metric units, more specifically the International System of Units. If custom or convenience dictates British-American units for specific uses, the metric equivalent should be given also in parentheses.
- (8) This Trans JIEP follows the practices of the Journal of JIEP, as outlined in the Institute’s published standards. Use only standard symbols and abbreviations unless defined when first used in the text. Be sure that all subscripts, superscript, Greek letters, and mathematical symbols are clearly identified. Authors should take special care to make all mathematical expressions legible. Do not give derivations that are easily found in the literature; merely cite the reference.
- (9) Avoid the use of trade and company names and proprietary terms whenever possible. Likewise, avoid “nationalisms,” as in the following examples: our space program; power systems throughout the nation; research supported by the government.
- (10) Provide a biography (about 90 words) and photograph for each author.

Graphics Preparation

- (1) Prepare in Word, Power Point, Excel, or other adequate formats.
- (2) Use consistent typefaces in all figures. Figures will be reduced to make the smallest type size 8 points. It is suggested to use Times New Roman font. All of figures should be in the same size (width × length) whenever possible. For scanned graphics the original material should be no larger than 22×28 cm.
- (3) Either a black and white file or a color file is allowable to submit .

Submission of Final Manuscript

After reviewer-requested revisions have been made, we ask that you submit the final manuscript electronically, accompanied by a printed version that exactly reflects the text in the file. Details will be provided upon acceptance of the manuscript for publication. For further information, see “Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging - Information for Authors”.

Page Proofs

Page proofs are sent to the principal author just prior to publication of the manuscript. Minor and typographical errors should be noted and corrected according to the instructions enclosed with the proofs. Major changes required to correct errors in the manuscript will not, in general, be permitted. In order to avoid a major change, the authors should prepare the manuscript very carefully before submission.

Page Charges

The manuscript submission fee (JY 5,000/printed page, tax excluded) is required for a regular paper. You can get the reprints of your paper if you request to JIEP. The prices are shown below.

Table 1 Price List of Reprints without Cover

No. of pages	25 copies (¥)	50 copies (¥)	75 copies (¥)	100 copies (¥)
1– 2	4,500	4,500	5,000	5,000
3– 4	6,500	6,500	7,000	7,000
5– 6	7,000	7,000	8,000	8,000
7– 8	7,500	7,500	9,000	9,000
9–10	8,000	8,000	10,000	10,000
11–12	8,500	8,500	11,000	11,000
13–14	9,000	9,000	12,000	12,000
15–16	9,500	9,500	13,000	13,000

(Tax excluded)

Table 2 Price List of Reprints with Cover

No. of pages	25 copies (¥)	50 copies (¥)	75 copies (¥)	100 copies (¥)
1– 2	8,000	8,000	10,000	10,000
3– 4	10,000	10,000	12,000	12,000
5– 6	10,500	10,500	13,000	13,000
7– 8	11,500	11,500	14,000	14,000
9–10	12,000	12,000	15,000	15,000
11–12	12,500	12,500	16,000	16,000
13–14	13,000	13,000	17,000	17,000
15–16	13,500	13,500	18,000	18,000

(Tax excluded)

Table 3 Price List of Reprints PDF (CD-ROM)

	Price (¥)
Without cover data	4,000
With cover data	6,000

(Plus ¥500 for additional order, Tax excluded)

Copyright

It is the policy of the JIEP to own the copyright to the published papers, and to facilitate the appropriate reuse of the materials by others. The authors and their employers retain the full rights to reuse their material for their own purposes. To comply with the Japan Copyright Law, authors will be asked to sign a JIEP Copyright Form before publication. A copy of the form can be found in the first issue of the Trans. JIEP.